

広報・PI チーム 会議録

会議の名称	川口市自治基本条例策定委員会 第9回広報・PI チーム
開催日時	平成20年7月14(月)18時30分から21時08分
開催場所	川口市職員会館 2階 講座室B
出席者	(リーダー)伊田(昭)委員 伊田(清)委員、永瀬委員、堀和委員、林委員
会議内容	運営調整部会の結果報告 市民フォーラムについて
会議資料	・伊田(昭)委員作成資料
発言内容	<p>運営調整部会の結果報告</p> <p>チームリーダー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先日の運営調整部会の結果を報告する。 (資料(1)に基づき報告。) ・参考意見として扱うということだが、どの程度反映されるのか。 ・どのような内容の意見が出てくるか分からないので。 <p>事務局</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな意見を出てくると、まとまりかけた案をまた振り出しに戻すようなことにならないかという意見があった。 <p>チームリーダー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中身を吟味して取り入れられるところは取り入れることになるだろう。 ・我々が考えていたものとは違った視点での意見が出てくるかもしれない。 <p>市民フォーラムについて</p> <p>チームリーダー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意見の反映は、編集委員会に任せることになると思う。 (資料(2)に基づき説明) ・運営調整部会では大変厳しい意見もあったが、今回の新しい案だと、理解いただけるのではないかと思う。 ・どうしてパネルディスカッションになったのか信じられない。

チームリーダー

- ・運営調整部会ではパネルディスカッションに決定した。

事務局

- ・運営調整部会での議論では、ワークショップにしても市民から意見が出ないのではないかということ、パネルディスカッションをして擬似的に意見交換を体験してもらうことがまず大事ではないかという意見が出た。
- ・市民フォーラムではまず自治基本条例を知ってもらうこと、関心をもってもらうことが大事ではないかという意見が多かったと思う。
- ・二部構成にして第二部を事前登録制にすると、途中で人数が減ってしまうことが気になるという意見もあった。
- ・パネルディスカッションにして市民の声をどのようにして聞くのか。少人数でないと意見を述べにくいと思う。
- ・昨日編集委員会を傍聴した。編集委員がパネラーとなるということで、編集委員がどのような討議をされているのか気になったからである。
- ・編集委員の気持ちのなかでは市民に発信しようという点を強く感じた。パネルディスカッションでは、今後双方向になることが大事と思った。

チームリーダー

- ・市民が参加してよかったと思えるフォーラムづくりにしたいと思う。

事務局

- ・フォーラムの最後に対話集会に申し込める機会を設けるという提案もあった。
- ・パネリストは慣れている方がされることが多いと思うが、編集委員のなかでパネリストの経験がある方はほとんどいないのではないかとと思う。市民の方に分かりやすくどう伝えるか、技量とうか話術も求められるのではないかとと思う。
- ・パネラーは編集委員で確定なのか。

チームリーダー

- ・そうではない。私の案では、素々案の内容の討議なので、パネラーは編集委員がよいと考えた。

- ・私も何度か経験しているが、パネラーにはかなり臨機応変さが求められる。

事務局

- ・宇都宮の自治基本条例のパネルディスカッションを見たが、市民の人がパネラーとなり、聞きに来た市民にとっても分かりやすいものになっている。
- ・編集委員は相当の時間をかけているので、その考えを発表してもらっただけで有益だと思う。
- ・パネルディスカッションでどう議論するのか、パネラーとコーディネーターの間で準備しておいてもらう必要がある。

事務局

- ・パネルディスカッションという結論は運営調整部会で今後変わるわけではないとはいえ、皆さんのなかでパネルディスカッションについて納得感がない部分はいま議論しておいたほうがよいと思う。モチベーションがわからないままではお互いに不幸である。

- ・作られたディスカッションでは発展性がないところがある。

チームリーダー

- ・準備が相当大事だと思う。
- ・市民のなかにも意識が高い方がいる。いろんな意見が出ると私は思っている。行政と議員と市民を混ぜた場に期待していた。
- ・実のあるものになるのかどうか。50分ただ聞くだけで集中力がもつかどうか。

事務局

- ・今回の市民フォーラムは第一弾として周知 PR に努めるというのが第一の目的である。
- ・素々案の説明は生の討議形式であったほうがよいということでパネルディスカッションにしている。
- ・PI といったときに最低半年かけてやりたいと私は提案したが、時間がないということだったので、我々は一回に集中するという案にした。
- ・運営調整部会の下部機構としてこのチームはある。

- ・宇都宮の例ではどういう経緯で市民をパネラーにしたのか。またその後自治基本条例の進捗にどのような効果があったのか、お話を聞きたいが。

事務局

- ・前後の活かし方は分からないが、検討結果が会場のロビーに張り紙で出されており、コーディネーターが各パネラーの思いを引き出しながら実施していた。
- ・ある程度慣れている方じゃないとパネラーは難しいと思う。
- ・素々案といってもある程度具体的なもので、それをある程度説明しないといけない。そこをパネルディスカッションで説明するのか。

チームリーダー

- ・素々案の概要説明をどこかで設けるべきという意見なのか。
- ・パネルディスカッションの場でもいいが、まず素々案の内容の説明をしないといけないと思う。

チームリーダー

- ・第一部は一般論で、なぜ必要かといった講演になると思う。
- ・概要説明はパネルディスカッションの中で報告があったほうがよいように思った。
- ・コーディネーターを中心に事前準備をしっかり設計しておく打ち合わせが必要だと思う。
- ・例えば、名称はこれにした。なぜこうしたかといった説明が必要だと思う。

事務局

- ・いっぺんに素々案の概要を説明しても、聞く側はしんどいと思う。議会なら議会、行政なら行政という分野ごとに説明してその都度ディスカッションするという方法もある。

チームリーダー

- ・今日はフォーラムの詳細について詰めたいと思う。

- ・会場のレイアウト上、会場の端からはパネルディスカッションの様子をほとんど見るできない。
- ・集客人数は 280 名なら 280 名と想定しておいたほうがよい。

チームリーダー

- ・集客は 280 名にして、それ以上になった場合は別途対応することにした
- い。
- ・総合司会は堀和さん、サポートを林さんをお願いしたい。
- ・策定委員長のあいさつ時に VTR を流すという案はどうか。

- ・パネルディスカッションの前後、途中で持っていくことはできないか。

チームリーダー

- ・静止画でもよいと思う。

事務局

- ・編集委員会などを撮るのは可能である。

- ・パネルディスカッションの机などの準備時間は要らないのか。

チームリーダー

- ・机を事前に用意しておけばそれほど時間は要しないと思う。
- ・パネルディスカッションのレイアウト案は私が確認しておく。

事務局

- ・今のところ三宅部会長に講演をお願いして、コーディネーターは平部会長をお願いしようと調整している。
- ・素々案の説明に時間がかかるので、講演の時間を短くしてはどうか。

チームリーダー

- ・講演を 30 分にして、パネルディスカッションを 60 分にする
- こと
- い
- と思う。

- ・第 5 検討部会からは議員が入ることになると思うので、パネラー全員が市民でなくてもいいことにしたいと思う。
- ・パネラーは編集委員会に決めていただくことにしたい。各検討部会から 1 名という枠は設けないことにする。

- ・策定委員会の経過を追うようなディスカッションになりそうだ。

- ・編集委員会を傍聴し、大の大人が真剣に討議しているのは興味深く感じた。
- ・議論を通じて市民自身が変わっていくということも感じた。

(チームリーダーより資料(3)について説明。)

- ・各町会・自治会から2名というのは多くないか。
- ・仮に1名ずつでも来ていただくと193名になる。
- ・防災に関する集まりの経験から推察すると、1/4の自治会くらいしか来ないのではないかと思う。
- ・各委員が動員できる市民の数も限られてしまう。
- ・人数を指定しないと、町会・自治会から「うちは人がいない。」と言われてしまう。

チームリーダー

- ・町会あての文書案は事務局に依頼することにする。
- ・ポスターちらしの原案づくりは林委員にお願いしたい。

事務局

- ・ポスターの予算はなんとかやり繰りできそうである。
- ・B2サイズで見積もりをとった。
- ・掲示する期間、印刷時間から逆算してどのくらいまでにポスター案をあげないといけないのかは確認しておいたほうがよい。
- ・遅くとも9月1日には掲示しておかないといけない。
- ・事務局と相談しながら準備を進めたいと思う。

チームリーダー

- ・公民館便りは事務局で。市民団体向けDMは私がやる。HP上のアナウンスは事務局でお願いしたい。メディア向けは事務局と私が相談して進める。
- ・プログラムは私が中心となり進める。

事務局

- ・素々案の説明をした配布資料作成が大変かと思う。初めて見る市民にとって分かりやすいものにしないといけない。

チームリーダー

- ・ 予行演習についても考えないといけない。
- ・ 当日の前に委員同士の温度差をなくしておきたいと思う。素々案の読み込みを委員の間で事前にできないか。
- ・ まず策定委員会のなかでの意識統一ができていないといけない。
- ・ コーディネーターとパネラーが集まる機会が必要か、策定委員全員が集まるのは難しいと思う。
- ・ 直前でもよいので、パネルディスカッションの予行演習をしておき、策定委員が聴衆側にたって聞いておく場が必要だと思う。

事務局

(今後のスケジュールの説明)

- ・ 8月に検討部会をしてから9月に市民フォーラムをするので、時間はかなり厳しい状況である。全体としての素々案の読み込みは、全員が集まってまでやる必要はない。

チームリーダー

- ・ 事務局には、編集委員会で5名パネラーを決めていただくことと、8月早めにパネラーとコーディネーターと広報 PI チームでパネルディスカッションの決め方を話し合う場の日程調整をお願いしたい。
- ・ フォーラムに使う資料も決めなければならない。

事務局

- ・ 8月上旬だとまだ編集委員としては何もお話できないと思う。

チームリーダー

- ・ パネルディスカッションが今回のメインなので、十分に準備する必要がある。
- ・ 段取りをよく話し合っておきたい。
- ・ パネル展示については例えば、広報かわぐちの記事のようなものを掲示するのも1つかと思った。
- ・ 配布資料があることも考えると、パネル展示は他に比べ優先順位は低い

	<p>と思う。他の準備でも大変であるから、あまりこれに労力を割かないほうがよいと思う。</p> <p>チームリーダー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パネル展示は行わないこととする。 <p>事務局</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報 PI チームとしてコーディネーターとよく協議することが必要だと思う。コーディネーターやパネラーに丸投げせず、聴衆の市民にとってこんなパネルディスカッションだと分かりやすいか、有益になるかといったニーズを広報 PI チームとして伝える必要がある。 <p>チームリーダー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの原案は伊田清委員に作成をお願いできないか。 ・複数案を提案したい。 ・アンケートをもらうが、受付で記帳は必要なのか。 ・受付で地区と名前、所属だけは書いてもらうようにしてはどうか。 ・直前に来る人も多いが、開始時間は遅らせたくない。アンケートでその要素を書いてもらうほうがよいと思う。 <p>チームリーダー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受付は素通りにして、アンケートに地域、所属を書いてもらうようにしてはどうか。 ・今回は、7月24日(木)18時から、対話集会や駅頭広報について詳細を検討したいと思う。 <p style="text-align: right;">以上</p>
<p>次回以降日程</p>	<p>平成 20 年 7 月 24 日 (木) 18 時 00 分から。</p>